

おおつ環境フォーラム ホームページ

<http://eco-otsu.net>

大津市地球温暖化防止活動推進センター ホームページ

<http://otsu.ondanka.net>

大津のかんきょう宝箱（大津市ホームページ）

<http://www5.city.otsu.shiga.jp/kankyuu/top.asp>

## 2020年、動き出すパリ協定 ～パリ協定始動にあたっての地球温暖化対策の動きについて～

大津市地球温暖化防止活動推進センター事務局長 杉江 弘行

### はじめに

2015年12月にパリで開催されたCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）において、2020年以降の地球温暖化対策の新たな枠組みとしてパリ協定が採択された。

パリ協定は、初めてすべての国が参加する制度で、京都議定書以来18年ぶりの拘束力のある国際約束である。当初の予想よりも早く、2016年11月に正式に発効し、我が国も同年11月に締結している。パリ協定では、2020年以降の各国の取り組みに関する基本ルールが定められており、その実施のための詳細ルールは、それ以後のCOP会議において議論が重ねられ、2019年12月にマドリードにおいて、仕上げというべきCOP25が開催されたところである。いぜん課題は残されてはいるが、2020年からのパリ協定の始動にあたって、これまでとこれからの地球温暖化対策にかかる国内外の動きについてまとめてみた。

### パリ協定では、何が決まったのか

1992年に採択された「国連気候変動枠組条約」に基づいて、1995年以降、COP会議が毎年開催され、2020年までの温室効果ガス排出削減の目標を定める枠組みとして京都議定書が採択された。しかし、京都議定書は日本、EUなどの先進国だけに削減義務が課せられたが、中国、インドといった新興国などは削減義務を負っておらず、米国が参加しないなどの問題を抱えていた。また、これまでの地球温暖化対策の中心であった「緩和」だけでなく、「適応」についても焦点を当てるべきとの声も強まってきた。

このため、「すべての国」が参加する新たな枠組み構築に向けた議論が重ねられ、パリ協定が採択された。

パリ協定とは何か、何が決まったのか、整理すると次のようにまとめられる。

参加国がほぼ全世界を網羅し、かつ、参加国に法的拘束力を持つということ、世界共通の長期目標として、産業革命からの気温上昇を2°C未満に抑えること、できれば1.5°C未満になるよう努力することとし、そのため、今世紀後半に人為的排出と吸収を均衡させることを目指すとされたこと、すべての国は目標を設定し、国内対策を取るとともに、削減目標は5年ごとに更新し、従来より引き上げるとされたこと、すべての国が長期戦略として温室効果ガス低排出開発戦略の策定・提出に努めるとされたこと、また、排出削減だけでなく適応や支援の仕組みが定められたこと、さらに、すべての国は、定期的に情報を提供し、提供された情報は、技術専門家レビューの対象とするなどの透明性を確保するなどがあげられる。

### パリ協定の運用ルール（実施指針）を決めるCOP25の成果と課題

パリ協定の実実施指針は、2018年12月のCOP24において大部分が合意されたものの、大きな課題として残された市場メカニズムの取り扱いや各国の2030年目標の見直し等がCOP25で議論された。

市場メカニズムとは、国家間の協力により、日本等の先進国を中心に、太陽光発電、風力発電、植林などの先進技術を発展途上国等に導入、共同実施し、排出量の削減に貢献しようとするものである。しか



COP25において日本が開催した二国間クレジット制度パートナー国会合（環境省HPより）

### 目次

- |      |                        |                        |       |
|------|------------------------|------------------------|-------|
| 1・・・ | 2020年、動き出すパリ協定         | 大津市地球温暖化防止活動推進センター事務局長 | 杉江 弘行 |
| 3・・・ | 温暖化はどこまで進行しているのか       | おおつ環境フォーラム広報誌編集委員      | 西山 克己 |
| 4・・・ | 「三方よしエコフェア2019」に出展しました |                        |       |
| 4・・・ | プロジェクト等の活動報告・イベントのお知らせ | これからのフォーラム活動           | 編集後記  |

し、運用によってはその削減量が国家間でダブルカウントされかねず、結果として全体の温室効果ガスが削減されず、かえって増加させるなどの事態を引き起こしかねないという問題をはらんでいる。市場メカニズムの実施ルールは、COP25 においても合意にいたらず、引き続き COP26 の課題とされた。日本政府としては、これまで二国間クレジット制度を導入することで発展途上国における排出削減の実績があり、引き続き採択に向けて貢献していくとしている。

二つ目の課題、各国の 2030 年目標の見直しとは、パリ協定で 2020 年 2 月までに各国が 2030 年の削減目標を見直し再提出することになっていたもので、各国がどこまで削減目標を引き上げられるかが大きな課題とされていたが、COP25 においては、この削減目標の引き上げ義務化というところまでには至らず、COP21 の合意を再確認し、パリ協定の目標に対して各国目標では不十分であることを踏まえて、できる限り高い目標（野心的目標）に見直し再提出するように要請するにとどまっている。これについて、日本政府代表として参加した小泉環境大臣は、記者会見において「COP25 から帰って政府内の検討調整を加速させたい」とコメントされている。今年 11 月に英国グラスゴーで開催される COP26 に向けて、すでに目標を見直し再提出した国や見直しを目指して検討中の国も出てきている中で、小泉大臣も言及されている行動を伴う今後の温暖化対策の進展を期待したい。

### 温暖化対策を巡る国内の動き

我が国においては、温室効果ガス低排出型の「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」を 2019 年 6 月に閣議決定した。この成長戦略においては、最終到達点としての「脱炭素社会」を掲げ、それを今世紀後半のできるだけ早期に実現することを目指すとともに、2050 年までに 80%の温室効果ガスの削減に取り組むとされ、この達成に向けて、ビジネス主導の非連続なイノベーションを通じた「環境と成長の好循環」の実現を目指し、エネルギー、産業、運輸、地域・くらし等の各分野のビジョンとそれに向けた対策・施策の方向性を示している。加えて、ビジョン実現のためのイノベーションの推進、グリーンファイナンスの推進、ビジネス主導の国際展開、国際協力といった横断的施策等を推進していくとされている。

これらも踏まえて、環境省の 2020 年度当初予算では、新たな視点での気候変動問題への対応を前面に打ち出し、小泉環境大臣は「いわば気候変動対応型予算だ」と発言されている。具体には、気候変動×防災という視点に立って、自立・分散型エネルギーによる災害に強い地域社会づくりなどの推進、そして、気候変動×社会変革という観点から、CO<sub>2</sub>の削減のための革新的技術、素材の社会実装などを通じて、社会変革につながるビジネスの積極的な後押しなどが強調されている。

また、日本の自治体による 2050 年までの CO<sub>2</sub>実質排出ゼロ（ゼロカーボンシティ）の取り組みが COP25 で小泉大臣から紹介され、高く評されたとされている。これは、IPCC1.5°C特別報告で「気温上昇を 1.5°C に抑えるためには、2050 年までに CO<sub>2</sub>の実質排出量をゼロにすることが必要」とされていることを踏まえたもので、この 1 月現在 33 の自治体が「2050 年 CO<sub>2</sub> 排出実質ゼロ」を表明している。

滋賀県においては、1 月 6 日に三日月知事が「2050 年 CO<sub>2</sub> 排出実質ゼロ」を表明され、県民や事業者等多様な主体と連携して取り組んでいくことを宣言された。具体的取り組みについては、2021 年に改訂が予定されている「滋賀県低炭素社会づくり推進計画」において盛り込むとされているところであり、ぜひ、脱炭素に向けた取り組みが示されることを期待したい。

今回の COP25 において、日本は、いまだに新規の石炭火力発電所を建設する計画を有することから、有りがたくない「化石賞」を受賞し、批判の声にさらされた。このような石炭火力に対する日本の立ち位置に関する国際社会の評価については、あらためて政府、国民も含めた議論になるよう前向きに捉え、議論が進むことを期待したい。一方で、小泉大臣の尽力もあり、各国から日本に対する推進役としての期待が非常に高まったとされており、米国のパリ協定脱退の状況下において、COP26 に向けて、日本がこれからの地球温暖化対策、パリ協定をリードして行って欲しいと願っている。

そのためにも、政府においては、2030 年目標の 26%削減（2013 年比）、長期的目標としての 2050 年までに 80%削減に向けた具体行動が伴った地球温暖化対策が議論され、その先に見える脱炭素社会に向けた道筋が示されることを真に期待するものである。

### 最後に

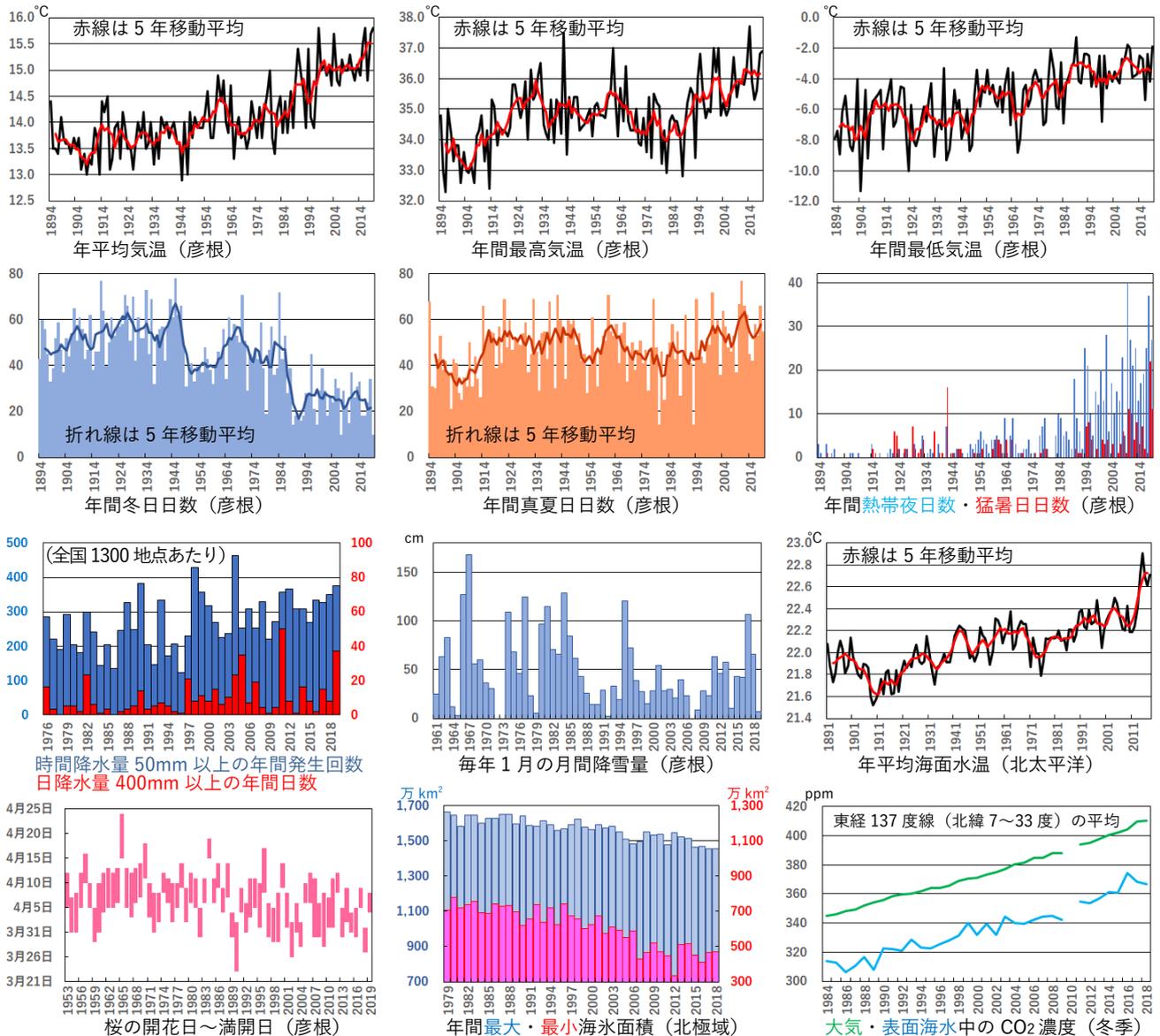
おおつ環境フォーラムが 2016 年に大津市から地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けて以降、温暖化防止活動を大きな事業の柱として位置づけ、会員の皆様には、その普及啓発活動の第一線に立ち活動を続けられており、あらためて敬意を表すところである。

言うまでもなく、温暖化問題は、人類が直面する最大の課題であり、待ったなしの課題となっている。温暖化問題は、「他人事」ではなく、いかに「自分事」として捉えるかにかかっている。そのため、私たちは、温暖化問題に対する正しい知識や情報を伝えるとともに、大上段に温暖化防止の必要性を訴え、そのために私たちが日常出来る取り組みとして、省エネや節電行動などの普及啓発活動を中心に取り組んできた(実感しにくいCO<sub>2</sub>の削減よりも、地球にも財布にもやさしい暮らしといった身近な側面からの普及啓発活動も含めて)。これからもこのような普及啓発活動は、ベースとして当然必要と思われるが、今後はさらに、温室効果ガスの大幅削減の先に見えてくる低炭素社会なり脱炭素社会を議論する視点も必要なるであろう。特に、脱炭素社会を実現するためには、社会の大きなパラダイムシフト(大転換)が必要とされている。その先には、より生活の質が向上し、快適に暮らせる社会が待ち受けている、そんな将来の社会のありようをイメージできる普及啓発活動も必要になってくるのではないかと考えている。

## 温暖化はどこまで進行しているのか

おおつ環境フォーラム広報誌編集委員 西山 克己

1月15日、世界気象機関WMOは2019年の世界の平均気温が観測史上2番目に高かったと発表した。昨今の気象災害からも、体感上も温暖化は間違いのないところではあるが、その進展度はどのようなのか気象庁公開の観測値をグラフ化してみた。顕著に表れているものからバラツキに紛れ目立たないものまである。あえて論評はしないが、読者諸氏はこれらの図を見てどう感じられるでしょうか。



観測値出典：気象庁ホームページの「各種データ・資料」に掲載の値をもとに筆者がグラフ化した。ただし、桜のデータは、彦根地方気象台ホームページの「滋賀県の気候」「生物季節観測」の値を利用した。

## ◇「三方よしエコフェア」に出展

12月7日、ピアザ淡海で開催された滋賀グリーン活動ネットワーク主催「三方よしエコフェア2019」に出展し、地球温暖化防止事業「家庭の省エネ簡易診断」を実施しました。

会場では、環境団体の出展のほかコンサートやごみ問題の落語もありました。昨年より来場者が少なかったものの24の方が簡易診断を受診され、家庭でできる温暖化対策について熱心に相談されていました。昨今の気象災害から温暖化への危機意識の高まりが感じられました。



### ■プロジェクト等の活動報告・イベントのお知らせ

#### 《里山保全プロジェクト》

春日山公園近世の苑ゾーンから古墳ゾーンにおいて竹の浸食抑制と活用のため竹の伐採を8名で行いました。竹の水揚げが止まる寒いこの季節が最適です。伐採する竹は稲木や杭などに使えるよう成長1年以上で10cm未満の真直ぐなものを選び20本ほど伐採しました。刈取エリアは斜面のため苦労しました。

#### 省エネルギー・再生可能エネルギー講座と個別相談会

「すぐに」「大きな」経済効果が期待できるエネルギー節約の方法を具体的に詳しく解説します。太陽光発電など再生可能エネルギーの導入事例についても紹介します。講座終了後、個別相談に応じます（事前連絡のあった方を優先します）。

日時：2月18日(火) 14:00～16:00

場所：明日都浜大津 5F ふれあいプラザ中会議室

対象：電気代が月3～10万円程度の小規模事業者のみなさま

問い合わせ・申し込み：大津市地球温暖化防止活動推進センター

☎ 077-526-7545    ✉ info@otsu.ondanka.net

#### 地域で地球温暖化防止にどう取り組むか

自治会等で実施した「ごみ減量」や「家庭における省エネ・創エネ」の実態調査の結果を持ち寄り、更なる温暖化防止のために地域で取り組めることについて意見交換し、今後について考えます。

日時：2月15日(土) 14:00～16:00

場所：明日都浜大津 4F ふれあいプラザ視聴覚室

内容：①アンケート結果について（報告）

②今後の取り組みについて意見交換

問い合わせ・申し込み：大津市地球温暖化防止活動推進センター

☎ 077-526-7545    ✉ info@otsu.ondanka.net

### ■これからのフォーラム活動

プロジェクト等の名称	日時	場所・内容
プロジェクト・学習研究グループ		
子どもが遊べる川づくり	2月18日(火) 15:30	大津市センター//会議
生ごみリサイクル	2月21日(金) 9:30	市民活動センター//EMボカシづくり
菜の花	2月29日(土) 10:30	雄琴菜の花畑//市民環境塾「菜の花まつり」
ビオトープづくり	2月9日(日) 9:00	北大路どろんことーぶ//補修整備
里山保全	2月3日(月) 9:00	春日山公園及び棚田//定例会
	2月17日(月) 9:00	春日山公園及び棚田//定例会
	3月2日(月) 9:00	春日山公園及び棚田//定例会
エネルギー	2月4日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
	3月3日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
委員会・実行チーム・事業部		
理事会	2月28日(金) 13:30	市民活動センター//理事会
エコフェスタ実行チーム	2月7日(金) 15:30	大津市センター//会議
里湖づくり事業実行チーム	2月10日(月) 9:30	琵琶湖環境科学研究センター、湖岸//湖底耕耘
	2月26日(水) 15:00	琵琶湖環境科学研究センター//里湖づくり協議会
	3月4日(水) 9:30	琵琶湖環境科学研究センター、湖岸//湖底耕耘
事業部 KES 普及推進グループ	2月20日(木) 13:30	ふれあいプラザ//普及推進グループ定例会議

\*大津市センター：大津市地球温暖化防止活動推進センター(明日都浜大津 4F)

《編集後記》 今年も暖かな年明けとなり、大寒を過ぎてもいまだ積雪を見ない。暖かいのは、過ごしやすく暖房に伴うCO<sub>2</sub>排出が少なく、それなりにありがたいのだが、気候変動が暴走し始める大転換点が一層前倒しとなり、今の温暖化対策が功を奏する前に到来してしまうのではないかという無気味さを覚える。自国第一主義は地球規模の大きなうねりの中では無意味だ。大国のリーダーたちは政策に反映させることで理解を示してほしいものだ。(K.N.)

特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム  
(大津市地球温暖化防止活動推進センター)  
〒520-0047 大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 4F  
Tel : 077-526-7545    Fax : 077-526-7581  
E-mail : forum@eco-otsu.net  
HP : http://eco-otsu.net  
編集責任：西山 克己